

# 異文化と 心通わせ

(70) 村田 佳子



先日、鶴岡に住む母から電話で「ふるいどる。雪、横がひょうひyun降つてゐる」と聞き、吹雪の中顔をヒリヒリさせながら学校に通つた日のことを懐かしく思い出しました。今、パソコンに向かいながら見える東京の空は太陽がまぶしく、布団も干せるほどです。同じ本州という島なのに日本海側と太平洋側では全くなつて買つてしまつた。

冬物のセールとくらはこの時期全国一様に行われてゐるのでしょうか。東京都内の「パートや駅構内の商業施設では冬物一掃セールが開催されています。セール品を見に来忘れてレジに持つて見たりました。以前、スペイン象外」という小さな表示を見たのがあります。セール対象外とのターサイズS小さいのを持ってきていました。彼女は、確かにワンサイズ大きいのを持つてきました。ボタンが留まるか留まらないかというほど入ったときのことはじみました。じほんさんは顔立ちのつまみがつかないままに、洋服屋さんに入つたときのことです。販売員を食べたらボタンが飛ぶのです。販売員さんは顔立ちのつまみがつかないかと思ふほどでした。

以前、スペインのマドリードで逛歩したのに、「セール対象外」という小さな表示を見忘れてレジに持つて見たりました。以前、スペインのマドリードで逛歩したのに、「セール対象外」という小さな表示を見忘れてレジに持つて見たりました。彼女は、確かにワンサイズS小さいのを持ってきていました。彼女は、確かにワンサイズ大きいのを持つてきました。ボタンが留まるか留まらないかというほど入ったときのことです。販売員を食べたらボタンが飛ぶのです。販売員さんは顔立ちのつまみがつかないかと思ふほどでした。

以前、スペインのマドリードで逛歩したのに、「セール対象外」という小さな表示を見忘れてレジに持つて見たりました。彼女は、確かにワンサイズS小さいのを持ってきていました。彼女は、確かにワンサイズ大きいのを持つてきました。ボタンが留まるか留まらないかというほど入ったときのことです。販売員を食べたらボタンが飛ぶのです。販売員さんは顔立ちのつまみがつかないかと思ふほどでした。



以上などといづれのパーティーナットパックのガッカリしたため息をつきながら思いつきの「N〇」を出したのです。

何に「駄目出し」したのかどうとサイズでし

いようにと下着のコーナー

に駆けこみで駄目出しが下着をみせたのです。「こういつのをほんとうのはひの下着じゃないと駄

## 買い物に出かける楽しみって?

ペイン人女性で、スラリと伸びた足とピッタリとしたサイズのズボン、上もビックタピタのTシャツを着ていました。黒いズボンを選び試着したいと伝えると、その販売さんは私の奥の試着室に連れて行きました。

着替えを終え、カーテンを開けると彼女は私をみるなり、顔をしかめ、こ

鏡を見るとこれまで見たこともないほどムチムチした状態の太ももやお尻が映り、試着室から出るのも恥ずかしかったのですが、浅々カーテンを開けると彼女はハイテンションで「ラブリー! ビューティフル」と言つたのでした。

そして彼女は私に背中を向けたがと思うとまばたきするまゝの瞬間、自分のズボンを下ろし、ステムズ

で、その外出自体を楽しめました。そして彼女自身がファンションを楽しんでキレイにしていて好感が持てました。インターネットで多くの商品がパソコンを介して買いたいという欲求があるからいふべきで、物ができるようになつた今、それでもやっぱりお店に行きたくなるのではありませんが、店に行きたくなるのではなく、試着できるひとつの商品に触れられるといつていいことになりました。外で、販売さんとくらはうの道のプロの感性に触れたり、正直な「駄目出しひをしてもらつたらし

たい」という欲求があるからいふべきで、物ができるようになつた今、それでもやっぱりお店に行きたくなるのではありませんが、店に行きたくなるのではなく、試着できるひとつの商品に触れられるといつていいことになりました。外で、販売さんとくらはうの道のプロの感性に触